

このコーナーでは、「建築」を紹介します。ここで扱う「建築」とは、美しい街並みの一角を形作るタテモノ、または多くの人々の記憶に永く留まるタテモノ、のここと。街や通りとの関わりから、建築に込められた持ち主・作り手の想いを紐解きます。

インタビュー  
 都城の建築家・板越政幸さん⑦に、昨年末に竣工した「has...」までの案内いただき、施主である木田電業の木田夫妻⑧(左)と対談していただきます。

編集部(以下、編) まず、こちらの建築は、木田さんご夫妻のお住まいでしょうか。

木田弘信さん(以下、H) はい、こちらは私も「木田電業」のショールームです。数年前からアメリカの「クレストロン」社と提携して、ホームオートメーションシステム/AVを提案しています。当社独自のコントロールシステム(卓上のコントロールパネル①)が構築できたことで、モデルルームでより分かりやすくお客様にAVを体感していただくたいと考えて、板越さんに設計をお願いしました。

編 なるほど、生活感がほとんどないので、不思議に思っていました。モデルルームとして、板越さんにとどのような要望をされたのでしょうか。

木田めぐみさん(以下、M) 今のところ看板も出しておらず、人目を引く必要があったので「ありふれたものではない形を」と。ただ好みとしてはシンプルなものが好きなのでその両方をお願いしました。

編 その要望に添って、入口側の印象的な壁のカチを提案されたんですね。

板越政幸さん(以下、板) はい。最初に模型で提案した案を、そのまま気に入っていただきました。提案するまで、事務所内では「シンプルでインパクトがある形」をかなり何案もスタディしましたが、

編 構造的にはどうなっているのですか？

H よく「鉄骨造かと思った」と言われるのですが、木造です。鉄骨で建てたかったんですけど、予算の都合で(笑)。

板 東側の斜めの壁面を木造で成り立たせるのが、少し難しかったですね。長さが少しづつ変わっていく2階レベルの傾斜を、1階レベルの柱が支えています⑩。

編 木造にしては、柱がない大きな空間ですね④。モデルルームとして、機能的に必要な形だったのですか？

H そうです。機能・用途としては、このコントロールパネル①の使い方を示すこと、がほぼすべてです。この通り150インチの3Dホームシアターのスクリーン③を上げる⑤も、オーディオの設定も、カーテンの開閉やエアコンの制御、入り口の施錠まですべて卓上で行えます。スマートフォンと同期させているので、同じ操作を外先からも行えます。

編 すごく！電気工事のモデルルームということでは、専門の機械室のようなスペースがあるのですか？ここ(2階)のダインングキッチン④のほかにどんな部屋があるのでしょうか。

H 中心は吹き抜けのリビングで、大型スクリーンとオーディオ、暖炉があります④。機械関係はオーディオ右手の、外から見ても斜めになっている部分(クローク)に入れてあります⑩。2階にはスクリーンを見下ろす机敷状のオープンスペースがあり⑤、そちらも打ち合わせに使います。1階にはほかにトイレ・洗面があります⑪⑫。

編 壁や天井の仕上げなどが、ずいぶんバラエティーに富んでいますね。色味もカラフルで多彩ですが、納まりがきれいで見えかぎりの線が少ないので、すっきり感じられます⑬⑭。

M 十分満足しています！手すりの赤や玄関

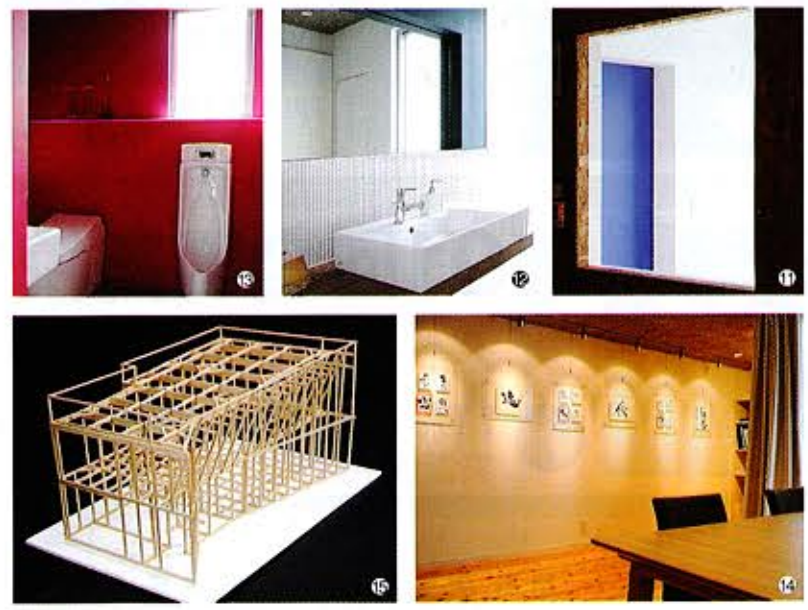
扉の青は主人、トイレのピンク色は私のリクエストです。ほかにもずいぶん、わがままを言わせてもらいました(笑)。

板 建築は、極端に言えば器に過ぎません。器がきちんとしていれば、お客様の好みの要素が入ってきても空間の質は担保される。そのために、まず会話の中からクライアントが一番大切にしている価値観や問題点を見つけ、問題を解決する方法、喜んでもらうことを考えます。

編 並び建つ周辺の建物との関係について、どのようにお考えですか？

板 特に都城のような地方都市の場合、周囲に合わせることはあまり意識しません。周辺エリアのベースになるような、普遍的な機能やデザインを持つ建築・新しい価値観を提案していきたいと思っています。

has...(木田電業モデルルーム)  
 都城市山之口町 富吉4192-10 ☎0986(57)4305  
<http://www.kida-dengyo.com/>  
 意匠設計 イタゴエマサユキアトリエ  
 都城市年見町5-5 ☎0986(80)5006  
<http://www.1511a.com/>



⑧木田さん夫妻(左も当然、照明など施工側で関わったの処理がきれいなので、全体がすっきり見える) ⑨斜め壁と吹き抜けのリビングのポリウレタンの余りが、機械室に充てられている



has...

設計:イタゴエマサユキアトリエ(代表 板越政幸)



②玄関まで視線と足が自然に導かれる東側ファサード ③150インチのスクリーンにJBLスピーカー。右上は高窓 ④ダイニング、2階方向を見る ⑤2階からリビングを見下ろす ⑥北側壁はガルバリウム鋼板 本文中※ロンシャンの礼拝堂:1955年に建てられたル・コルビュジェの代表作の一つ

クライアントの価値観を表現 建築家・板越政幸のモダニズム

都城市山之口町の田園風景の中、ひととき目を引く建築がある。全体はシンプルな箱型なのだが、入り口側(東側)の真っ白い壁全体が、その入り口に向かって斜めにすぼまっている。住宅のようだが東面に窓はなく、北面にも小さく一つだけ。実はこの建築、「木田電業」という電気工事会社が、米クレストロン社と提携したホームオートメーションシステムをプロモートするために建てたモデルルーム。「ありふれた見た目ではなく、かつシンプルに」という要望に鮮やかに応えたのは、都城市の建築家・板越政幸さんだ。建築の目立つ外観とは裏腹に、板越さんは「建築とは施主の要望の器です」と語り聞き役に徹する、穏やかで真摯な人物だった。筆者が東のファサードから連想したのは、ロンシャンの礼拝堂(※)のテーパーがかかった深いポツ窓。「問題解決と新しい価値観の提案」という板越さんのポリシーに、抑制された初期モダン風の端正な表現がマッチしていた。

